

天地人

2026・3・15

弘前大大学院理工学研究科教授の阿布里提さんは、中国・新疆ウイグル自治区出身。1990年に来日し、八戸工業大や東京大、弘前大、本県行政機関でも勤務、41歳で日本国籍を取得した▼これまでエネルギー・環境研究に取り組んだ阿布さんは、米スタンフォード大などが発表した世界で最も影響力のある研究者トップ2%にランクイン。弘前大学学術特別賞(遠藤賞)も受賞し、日本工学アカデミーの正会員に選ばれた。外国出身の研究者として簡単な道ではないが、来日当時の日本にあった「自由の風」に後押しされた面もあるという▼筆者が出会ったのは2011年、自然エネルギー発電の弱点を補う大型鉛蓄電池併用の家庭用システム実証実験で。先日、研究室を訪ねると「これからのエネルギーは地域ごとのベストミックスが重要」と話す。気候条件や資源、消費構造が地域で異なるからだ▼折しも中東情勢によりガソリンや灯油の値上がりが家計を直撃している。積雪寒冷地には発電に適さなくても暖房、融雪に生かせる再エネ熱資源が多い。地域特性に応じ省エネ技術と組み合わせれば、持続可能なエネルギー社会に近づく▼今冬、津軽地方を中心に生活を脅かした大雪を思う。地域の気候や資源に目を向ければ、生かしきれない知恵は少なくない。不安定な世界、答えは足元の風土にあるのかもしれない。

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科 E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp